会議名称：平成２６年度７月期古賀市社会教育委員会議
日　　時：平成２６年７月７日（月）１９時００分～２１時００分
場　　所：市役所第２委員会室
主な議題：　生涯学習笑顔のつどいの開催について
傍聴者数：傍聴者なし
出 席 者：木下委員、小山委員、力丸委員、加藤委員、永井委員、平島委員、橋本委員、船越委員、松本委員、水上委員
（以上委員１０名）
山田課長、本田係長、野田、篠塚
欠 席 者：なし
事 務 局：教育委員会生涯学習推進課社会教育振興係
配布資料：①レジュメ
②笑顔のつどい実施報告
③社会教育委員の会議今後の予定について
会議内容：以下のとおり

木下議長：
７月期社会教育委員の会議を始める。まず生涯学習笑顔のつどいについては、皆さん方の力で成功に終わり、本当にありがたく思っている。お疲れさまでした。後ほどそれぞれの役割、あるいはこのつどい全体を通して感じたことを発表していただきたいと思う。そしてそれがまた次に生かせたらと思っている。
また、この会議では教育委員会への提言を毎年のように出している。生涯学習笑顔のつどいという本年度の大きなイベントが終わって、さあ、今年度の活動はどうするかというのが今日の主な議題になると思う。
では協議事項に入る。まず（１）社会教育関係団体の登録について、事務局から説明を。

事務局：
古賀市では社会教育関係団体の登録制度を設けており、登録の可否を決定する際には社会教育委員の会議において意見を聴くことになっている。今回、古賀市環境市民会議（ぐりんぐりん古賀）から申請書の提出を受けたので、御審議いただきたい。当団体については、古賀市環境基本計画に基づき、市民、民間団体、それから事業者が共働して古賀市の良好な環境の保全と創造に関する事業を推進することを目的に活動している。活動内容等については資料をご覧いただきたい。申請書及び提出書類から登録の基準にあげている事項を満たしていると判断できることから、登録することが妥当であると考えている。

木下議長：
この団体についてはご存知の方もいると思う。私はよく知らなかったのだが活動内容を見てすごいなと思った。古賀市の補助金をもらっているようだが、これは。

事務局：
補助金については、古賀市環境活動連携推進事業補助金の交付要綱に基づいて支出しているところである。

木下議長：
では、よろしいか。
次に、（２）古賀市生涯学習笑顔のつどいの振り返りと次回へ向けてということで、皆さま方のいろんな反省や意見をいただく前に、事務局でまとめている部分を先に説明していただきたい。

事務局：
お手元の実施報告をご覧いただきたい。参加者数は３３８人、周知の方法、それから当日に回収したアンケートの集計結果を一覧にしている。また、来年度はどのように進めていくのか、そういう方向性についても協議していただきたいと思う。

木下議長：
アンケートの集計を見ると、まず「よかった、とてもよかった」という回答がすごく多いと思う。具体的な意見・感想でも皆さんすばらしかったという意見が多いし、実践報告でも皆さんの日頃の取組に感動して、これは自分たちもやらないといけないなという思いで感想を述べているような気がする。ただ、中には開催日の問題とかあるいは実践報告の時間が長かったのではないかとか、今後の参考になるような意見もある。ずい分そういうところは気を遣ってやったつもりだが、必ずいろんな意見は出てくるもので、来ていただいてありがたかったという気持ちでこのご意見を受け止めていかないといけない。
ではアンケートの意見を参考にしながら、つどいを行った側の委員の皆さん自身の反省なり意見なりというところで、まず担当した役割についてどうだったかということを言っていただきたい。まず加藤委員、発表者としての感想をそうぞ。

加藤委員：
発表に関しては予定していたよりも長くなってしまって、アンケートにもかなり見られるように、実践報告がそれぞれ長かったのではないかなと自分たちでも思った。やはり発表する難しさを感じた。一本だけの発表であれば長くてもいいと思うが、三本で全体の報告、しかもそこに助言が加わるということを考えたら、それぞれを１０分ずつぐらいでコンパクトにした方がよかったと思った。

小山委員：
受付は特に混雑もなく、このくらいの人数であれば対応できると感じた。

力丸委員：
場内案内については、特に問題はなかった。

松本委員：
後方の座席に座らないように案内をしていていたのはよかったと思う。前の方に集中して座ってもらうことができた。
ロープなどを張るのではなく、譜面台を立てて案内したのはよかった。

船越委員：
司会進行は、入念に打ち合わせやリハーサルを行ったので当日はスムーズに行うことができた。

平島委員：
今回、準備をきちんと行っていたので、当日の進行がスムーズにできた。今回の個人的な感想を言うと、オープニングとエンディングの映像があまりにも素晴らしかったので、これが第１回目となると、２回目以降を考えるのが大変だなということを感じた。

木下議長：
映像は本当に素晴らしかった。水上委員、感想は。

水上委員：
自分としては、ぎりぎりで文言のチェックなどをすることになってしまったので、もう少し早めに取りかかっておけば皆さんにも余裕を持って確認してもらえたのにと思っている。エンディング映像で手拍子をしてもらったのは、本当にうれしかった。

木下議長：
皆さんのいろいろな意見と、水上委員の作成の苦労があってあのような映像ができたのだと思う。あの映像が一挙に会場の雰囲気をつくることにつながったと思う。

松本委員：
内容的には、やはり当初の目的である生涯学習の交流とか、皆さんが日々取り組まれている活動の価値付け、自分たちの活動がどのくらい古賀市のまちづくりに寄与しているのかということが、実践報告や映像、そして助言者の助言の内容によって、実践をしている人たちは勇気づけられたのではないかと思う。特に三つの実践報告に共通するものが「熱い思い」なんだという、そこをずい分前面に出されており、発表された方々もうれしかったと思うし、あるいは会場に来ている、あまりスポットライトを浴びなくても日々地道に地域で活動している方々は勇気づけられただろうなと感じた。

木下議長：
第２次古賀市生涯学習基本計画がスタートするということで、ぜひこの内容を市民の皆さんにお披露目して、関係団体が皆これをひとつの柱にして活動していこうということが大きな目標としてあった。それでつどいの中では山田課長が基本計画についての説明を行ったが、非常にわかりやすかったと思う。だからそういう意味で大きな目的は達成できたと思うのだが、より多くの方に知っていただくという部分で、残念ながら８００人には達しなかった。
ではアトラクションについてはどうだったか。

船越委員：
高校生のグループに出演してもらったのはよかった。普段のこういった催しにはないと思う。

木下議長：
彼女たちには、地域の祭りに出演してくれという依頼もあっているようだ。新たに活動の場も広がっている。

加藤委員：
今回のつどいが無事に終わったのは、事務局の方々がタイムスケジュールをしっかり準備してくれて、舞台の段取りも詳

細まで詰めていてくれたおかげだと思う。また舞台から見えないところで動いてくれた方や、生涯学習推進課の方だけではなく、応援に来てくれた人もいて、そういう人たちの力があって実現したつどいであったと思う。

木下議長：
大体どこの市町村も、こういったつどいは行政主導で多分行っているのだと思う。それが今回、社会教育委員が主体的につどいに携わり、それからいろんな方面から助言をしていただいて、ひとつの形になったという、これは事実なので、皆さん誇りに思っていいと思う。これからさらに生涯学習活動が大きくなっていくだろうなということを感じる。やはり何かをやった後には、感謝というものを感じる。
今回のつどいは、分館長・分館主事の研修会という位置づけになっていたと思うが、思ったより参加者が多くないようだが。

事務局：
今回のつどいを分館長・分館主事の研修会とすることを決めたのは、校区代表の分館長・分館主事の会議においてであった。だから、第１回目の全体会ではつどいの開催については案内したが、その段階では研修会に兼ねることは伝えられていなかった。だからある意味、周知徹底ができていなかったというのが反省点である。公民館係としては、当分の間は笑顔のつどいを研修会に充てていこうという方針はあるので、来年度以降は当初からきちんと案内ができるように調整していきたい。

永井委員：
今回、このつどいを通して、こういう活動をやっているということは伝えることができたと思う。今後、生涯学習振興方策として、自治会などの地域コミュニティを対象とするのか、あるいは個々の市民を対象とするのか、ということは考えることだと思う。例えば地域コミュニティ単位であれば、区長や分館長などに自分たちの活動の中から実践報告の事案を選んでもらえば、参加者としての意識も高まると思う。また社会教育委員が中心となって市民全体を対象とするのであれば、告知の方法など無関心な人が関心を持てるような内容にしてしないといけないというのが率直な感想である。

木下議長：
初めから言っているが、生涯学習センターが平成２８年度にオープンする予定である。その時に、このつどいが大きなものになるという目標があるわけで、少なくともこのつどいは５、６年は続けていかないといけないと思う。そういう取組の中で生涯学習振興の姿がはっきりしていけば、市民へ伝えることにもなると思う。ということで、笑顔のつどいは社会教育委員が主体となって毎年行う、ということでよろしいか。

小山委員：
毎年行うというのはいいのだが、やはり委員の交代もあるし、要するに開催時期が６月頃であれば、新年度から準備を始めては間に合わない。委員が替わった場合、前の委員たちで企画したものを新しい委員がいきなりやるというのはちょっと難しいかなと思う。
そういう問題に対して、子ども会育成会でやっていたのは、前もって次年度の役員を対象に、指導者研修会を２月頃に行っていた。まあ、そういうやり方もあるかなと個人的には思う。
ただ、このつどいに「第１回」と付けたのは、これからも回数を重ねていくという決意の表れであって、そこはもう既に確認していたと自分は理解している。

木下議長：
ありがとうございました。では毎年やるということをここで確認する。
あとは開催時期や委員交代の問題などは確かにある。やはり、このつどいは新しく建設される生涯学習センターの完成に向けて生涯学習活動を盛り上げていこうというねらいがあるので、当分は６月頃の開催がいいと思う。やはり５万６千人の市民にいっぺんに来てださいと周知するのはなかなか難しいのだが、やはりまずは区の役員とか、コミュニティとかつながりひろばなどを中心に呼びかけていくべきだろうという思いはしている。
では次年度へ向けての課題ということで、それぞれ意見を述べていただきたい。

松本委員：
ひとつめは先ほど平島委員からも出ていたが、１回目が非常にすばらしかったので、２回目以降プレッシャーがかかるなということ。２回目以降も早くから内容についていろいろな意見を出し合い、準備をしなければならないと思う。
ふたつめは時間について。当初から２時間半の設定で行ったが、他の催しなどを見ても２時間で設定しているものが多い。２時間半がいいのかどうかは検討する必要がある。今回、３本の実践報告はいずれも内容がすばらしかったし、木下議長がおっしゃっていたように客席からの質疑も受けたいなと思った。しかしそうなればもっと時間も必要になる。どこまでをこのつどいで満足させて、どこを省くのか、そのあたりを来年度に向けて検討して、２時間で収まるような内容にした方がいいのではないかと思う。
それからみっつめは笑顔の映像の中に、市長の映像が入っていなかった、という意見をいただいた。我々は、当日にあいさつをしてもらう時間がないということで、市長以外の方々の写真を映像に入れたのだが、そこは配慮する必要があったかなと思った。

小山委員：
アンケートを見ていて感じたのだが、やはり全体的に参加者の年齢層が高い。それはありがたいことなのだが、やはりどうしても若い世代の力が必要になってくると思うので、ＰＴＡとか育成会活動にもう少し力を入れて、若い世代が参加するような働きかけをしていかなければならない。そう考えると、託児も付けなければならないかもしれない。もう少し、参加者の年齢層の引き下げに力を入れるべきだと思った。

平島委員：
その点に関連して言うと、９時半という開始時間は若い世代の方の行動時間に合わないので、いっそのこと午後から開催するというのはどうだろうか。

永井委員：
自分たちの世代が動ける時間といえば、たいてい夜である。

水上委員：
若い世代に出演してもらえば、参加者も若い世代が増えるのではないか。出演者を工夫すれば、参加者の年齢層も変わる。

永井委員：
笑顔のつどいは、生涯学習活動のすそ野を広げる、という役割に徹していいと思う。そして、校区コミュニティなどでもっと知識や活動を深めていく、という両輪をつくらないと、笑顔のつどいだけで何でもやってしまおうというのは難しい。

水上委員：
私は福祉会の活動に関わっているのだが、福祉会の活動が報告されたにも関わらず、参加者に福祉会関係者は少なかった。だから、こういうことをやりましたよ、という事後のお知らせが大切だと思う。今度、福祉会の会議があるので、そういった場で花鶴丘３丁目区福祉会の実践報告があったことを伝えていけば、参加しなかった人たちに対しても次回へ向けての意識づけになると思う。

永井委員：
以前の社会教育委員会議でも意見を言ったが、生涯学習に関する情報のデータバンク化が必要だと思う。笑顔のつどいは録画しているが、このデータが必ず生かせる場所を作らないといけない。こういった記録映像を作った場合は、ホームページに掲載して、誰でも見ることができるような状態にしてもらいたい。

加藤委員：
今回の映像は公開されるのか。

事務局：
ホームページ上で公開することは考えていなかったが、もし公開するのであれば、オープニングの映像は著作権の問題上カットしなければならない。また、映像で使っている写真には市の広報から提供してもらったものも多数あり、これをホームページ上で無制限に公開するというのは難しいと思う。

木下議長：
先ほどの永井委員の意見は、映像を活用したいということだが。例えばアトラクションと実践報告の部分は、出演者から承諾を得ればホームページで公開できるということか。

事務局：
アトラクションと実践報告の部分だけであれば公開することは可能であると思う。ただ、市のホームページで動画を掲載できるかどうかは未確認である。例えば記録映像として貸し出しするということも方法としては考えられる。

木下議長：
ではその辺りは考えよう。他に。

加藤委員：
今回私たちは、アトラクション３本、実践報告３本、という構成を選択した。例えば講演会形式とか他にもいろいろな選択肢があった。第２回目に向けてはそこから検討しなおしていいと思う。今回の構成がよくなかったとかそういう意図ではなくて。また新しい発想が出てくるんじゃないかと思う。
それから、すごく大変だと思うが、個人的にはつどいの主催は実行委員会形式にして、社会教育委員以外の団体から実行委員会に入ってもらうかたちにした方が参加も増えるのではないかと思っている。ただそれは、非常に大変にはなると思うのだが、その辺の覚悟を持ってやるかどうか、というのが今後の課題だと思う。
それともう１点は、今回、分館長分館主事研修会と兼ねることができたように、ＰＴＡや育成会を取り込もうとするのであれば、そういう団体の研修会や催しなどと一緒にできることは一緒にしていかないといけないなと思う。今回、私も自

分より少し若い世代の母親を誘ったときに、また何か行事が増えるの、と聞かれてしまった。やる気があって活動している方でも、そういうふうに思ってしまうところがある。一緒にできるものがあるのであれば事前に調査しておいて、一緒にやれないかという段取りをしていけたらいいのではないかと思った。

木下議長：
実行委員会形式というのは以前にも意見として出ていたと思うが、やはり時間的にできなかった。またつどいの構成についても、講演会をするのであれば事前に予算化しておかないといけない。講師については近隣にもすばらしい人はたくさんいるので、そういう人に来てもらってもいいし、また生涯学習センターには研修室がたくさんできるので、つどいの前半を全体の部にして、後半は青少年育成とか、高齢者とか、課題ごとに分かれるとか、そういう展開もできるのかなと思う。
やはり、平成２８年度に生涯学習センターが完成する、これを念頭に置きながらつどいを考えていくべきだろうと思う。いろいろ課題が出てきた。次年度に向けては、いつ、どういう形で、というところまである程度決めておいた方がいいと思うが。

事務局：
アンケートの意見を見ると、時期についてはおおむねこのままでいいというものであった。それで、実は来年度、ホールの釣り天井の改修工事をしなければならず、約３ヶ月間、ホールが使用できなくなる。事務局としては、日程については来年度の５月３１日の日曜日を候補として挙げ、この場で日程については決定させてもらいたい。中身についてはまだ十分検討していく余地はあると思うが、日程については早く決めないと他の行事がどんどん決まってしまい、開催できなくなってしまう。

木下議長：
事務局から提案があったが、日程は５月３１日ということで決定してよろしいか。
（異議なし。）
５月３１日という日程が決まったので、いつ頃から検討を始めてとか、あるいはどういう構成で、とかいうことをある程度決めないといけない。８月の会議で、今日の会議の内容を踏まえてつどいの構成を決めてもいいのだが。今日全てを決めるのは無理だろうから。そうすると、来年度へ向けての流れができるのではないかと思う。
そして、実行委員会形式でするとなると、やはりなかなか難しい。この社会教育委員の会議とは別に場を持たなくてはならないから。だから、来年度は今年と同じように社会教育委員が主管というかたちでやった方がいいのではないか。
それともうひとつは、今後の社会教育委員の活動について。
研修棟が建て替わり、生涯学習センターとなる。それを機会に、公民館運営審議会で減免制度などの問題を考えないといけなくなるので、そうすると、社会教育委員の会議としては、社会教育施設全体を考えなければならない。社会教育施設全体の使用料の問題とか減免の問題とか、提言として考えないといけないところがあると思う。そういうことも考えていくとすると、次回の笑顔のつどいに向けての流れができてくるのかなという感じがするが、委員の皆さん方で、この社会委員の会議で扱うべきだというテーマが何かあればご意見を伺いたい。こういうことがこの会議の中で学べたらいいなとか、意見を出し合えたらいいなというテーマはないか。
過去のことを言うと、私が議長になる前はほとんどが個人の提言であった。だがその提言内容がなかなか行政に届かないというか実現しないということを聞いたので、私が議長になってからは、行政が課題としてとらえていることや、ぜひこういうことをやりたい、ということがあるのであれば、そのことについて議論した方がずっと実現可能性が高いというこ

とで、会議としてテーマを決めて提言を行っている。だから、提言をするためにこの会議をやっているわけではないのだが、やはり我々社会教育委員の責務として、そういったことはしっかり考えていかないといけない。

小山委員：
まずは今年度、提言を出すか出さないかを決めないといけない。
もし出さないということであれば、個人的には、先ほど議長が話されたような過去の提言を皆で検証して、市の社会教育行政とどうつながっているかを改めて考えてみたい。そういった過去の経緯を踏まえて、第２回の笑顔のつどいにつなげていきたい。

木下議長：
他に意見のある方は。

加藤委員：
個人的には、数年前に黒田元社教センター副所長を招いて行った講義が非常にためになった。社会教育のこれまでの歴史、時代とともにどう変わってきたのかということを教えていただいたのは、私にはすごく勉強になった。その中で、自分たちが今のこの世の中で、どう活動をしていったらいいかということが何となく見えてくるというか。
だから、そのような社会教育の過去からの経緯を学ぶ機会を設けたいということと、それから小山委員が言われたような古賀における社会教育の歴史、これまでこういった提言をしてきて、それがどのように生かされているのか、どのような背景があったのか、そういったことを私たち社会教育委員として知っておく必要があるのではないかと思った。

力丸委員：
第２回目の笑顔のつどいについては、まだ方向がはっきりと見えてはいないが、市民が意欲を持つようなつどいにしなければならない。ある程度市民参加型の方向に向けていかないといけないのでは、と考えている。受身だけのつどいでは、今後あまり伸びていかないのではと感じている。そういうところも含めて、勉強会をしていけたらいいと思う。
社会教育は、私が１０年前にやっていた頃よりも確実に組織率は下がってきているところが多いので、やはり元気になる生涯学習・社会教育の場をつくっていかないといけないので、個人からはじまる生涯学習ではあるけれども、このように組織率が落ちていくということは、何かやっぱりあるだろうなと。

木下議長：
そのように見識を深めていくということはとても大事だ。先日、県の社会教育委員の評議委員会があったのだが、他の自治体ではもう何年間も社会教育主事講習に職員が参加できなかったり、社会教育委員の会議も年２回しかないというところもある。だからそういう意味で、古賀市では村山武先生が非常に大きな礎を作っていただいて今があるわけだから、絶対にそれを消してはいけないという思いで私はやってきた。ぜひそういうことでこれからも受け継いでもらいたいという思いがある。
では今年度の会議のあり方については、今のようなかたちで、過去に学びながら来年度に向けてというところで、社会教育全体を語ることのできる講師を呼んでもいいし、提言についてはそういうものを何かまとめられたら、ということで考えたい。
それでは７月期の社会教育委員の会議を終わる。皆さんお疲れさまでした。